

「2013年度合格祝賀会」

司法試験、公認会計士試験、 国家公務員採用総合職試験

矢野学長 「得意技つくり精進を」



「得意技つくり精進を」
の精進を」と激励した。続いてあいさつに立った日高理事長は、資格試験を「四角い試験」だと解説。「まず要求された形をこなし、難関をくぐったら丸でも三角でも依頼人に応じて変幻自在にやるしかない。どんな形でも結構、自分の生き方に合った専門家になっていただきたい」とはなむけの言葉を贈った。

記から学長野矢
念品が贈られた
が12月17日、神田キャンパスで華やかに開催された。今年度は司法試験9人、公認会計士試験11人、国家公務員採用総合職試験1人の合わせて21人が合格。祝賀会には、司法修習や所用のため欠席した9人を除く12人が出席し、矢野建一学長や日高義博理事長をはじめ

が12月17日、神田キャンパスで華やかに開催された。今年度は司法試験9人、公認会計士試験11人、国家公務員採用総合職試験1人の合わせて21人が合格。祝賀会には、司法修習や所用のため欠席した9人を除く12人が出席し、矢野建一学長や日高義博理事長をはじめ

13年度公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験合格者

- ※新司法試験合格者は第517号(10月号)に掲載
- (カッコ内は在学・卒業年学部・所属ゼミ・出身校)
- ◆公認会計士試験
 - 山本竜矢さん(経済3、静岡県沼津東高)
 - 小野勝也さん(商3、千葉県船橋西高)
 - 宮田英嗣さん(商4、安藤英義ゼミ、香川県高松商業高)
 - 神保将輝さん(商4、奥村輝夫ゼミ、東京都調布)

- 北高
 - 小林貴之さん(商4、建部宏明ゼミ、神奈川県厚木東高)
 - 遠藤大介さん(平25商、東京都専大附属高)
 - 照屋範人さん(平24経済、沖縄県那覇高)
 - 野呂幸矢さん(平22経済、千葉県八千代松陰高)
 - 大島祐輔さん(平21商、岐阜県恵那高)
 - 高野晃徳さん(平20経済、西村弘ゼミ、長野県屋代高)
- 東高
 - 田上真梨子さん(平19経済、東京都専大附属高)
 - 高山直仁さん(平22経営、山梨県都留高)
- ◆国家公務員採用総合職試験【大卒程度試験】

講義の取り方を工夫



山本竜矢さん(経済3)
入学を機に、新たなチャレンジをしようと、会計士講座を受講しました。大講義で初めて会計学や簿記に取り組みましたが、講座は初心者にも分かりやすく、合格に向けた力になりました。試験勉強では、講義の取り方を工夫するな

勉強法を見習い自信



小野勝也さん(商3)
専門性が高く信頼される職業に就くのが夢だったので、「計理の専大」に入学した時から3年次での合格を目指しました。会計士講座の奨励生(※)として専門学校に通い始めると、周りには有名大学の学生ばかり。同じ時間勉強して

友人との交流も大切



宮田英嗣さん(商4)
全力で試験勉強に取り組みましたが、それが全てではない。授業も怠らなかつたし、友人との交流も大切にしました。試験勉強も大学生活も一生懸命やり遂げた。それが誇りです。将来は国際感覚を持った会計士を目指します。

運動でリフレッシュ



神保将輝さん(商4)
会計の専門学校に通学、アメリカへの短期留学と両親にすくなく負担をかけたので、絶対に在学中に合格しようと思いました。はじめは一日約13時間勉強していましたが、段々気持ちが落ち込んでしまいましたが、一緒に勉強した人の中

苦手科目を作らない



小林貴之さん(商4)
高校時代から公認会計士を目指し、合格に向けて手厚いバックアップで定評のある専大に入学しました。苦手な科目を作らないよう、バランスよく学ぶことを心がけました。私の場合、苦手は財務会計、この攻略に時間を注いだ

計修会も祝賀会

計修会(専修大学公認会計士試験研究室)主催の公認会計士試験合格祝賀会が12月14日、神田キャンパス近くの会場で50人が参加して開かれた。写真。本年度は計修会室員から、小野勝也さんと山本竜矢さんの二人(いずれも3年次)が合格した。この言葉をいただいた。

公認会計士

当日は、計修会室長でもある佐々木重人商学部長、内野明前商学部長、会計士として活躍しているOBに加え、エクステーションセンター主催の「会計士講座」で指導をいただいている平澤哲先生ほか、日ごろお世話になっている先生方二人も駆けつけ、「現役合格10人を目標そう」とお祝いの言葉をいただいた。

現役合格者

い、励まし合って同じ目標に挑戦する仲間が集う場であり、そこで鍛えられたコミュニケーション能力は、社会人基礎力の向上や卒業後の連携強化にも役立つ。

※奨励生制度 本学の会計士講座を熱心に受講し、学習の進捗が著しく、現役で公認会計士試験に合格しようとする熱意を持つ受講生を選抜し、2年目の「基礎講座」の受講に替えて大原学園の上級カリキュラムの受講を課す制度。

初代総長・阪谷芳郎関係書簡集

図書館所蔵の未発表1365通 専修大学編



関東大震災購入。簡易目録を作成して大方の利用に供してきただが、本資料が日本近現代史研究や大学史編纂に大きく寄与できるものだけに、各方面からより詳細な目録作成と翻刻刊行が望まれていた。こうした声に応え、2008年、図書館に学内外の歴史研究者からなる「アドバイザー会議」を設けるなど、組織的な取り組みが開始された。09年に資料の保存と利用を考えたマイクロ化を完了させ、同年『阪谷芳郎関係書簡目録』を刊行。続いて本書の刊行に向け、整理、解説に専門家の協力を得ながら、図書館で編集作業が進められてきた。

50年。大蔵大臣や東京市長を歴任し、政財界や教育界に多彩な人脈を築いた阪谷に送られた本学所蔵の未発表の書簡類が、節目の年に1冊にまとめられた。阪谷は1884(明治17)年に東京大学を卒業し大蔵省に入省。専大との縁はその2年後に生まれ、東大で専大創立者の一人、田尻稻次郎から理財学を学んだ縁で、官僚生活の傍ら1889年まで講師として教壇に立った。頭腦明晰で高潔な人柄は近代日本実業の父、渋沢栄一に目撃されたことからもうかがえる。26歳で渋沢の次女と結婚し、43歳で大蔵大臣、49歳で東京市長になるなど政財界で幅広く活躍。初代学長・相馬永胤の死去により、震災で校舎を焼失し財政難に陥った専大のかじ取りを託されたのは61歳の時だ。書簡類は本学図書館が1963年に古書店から